



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

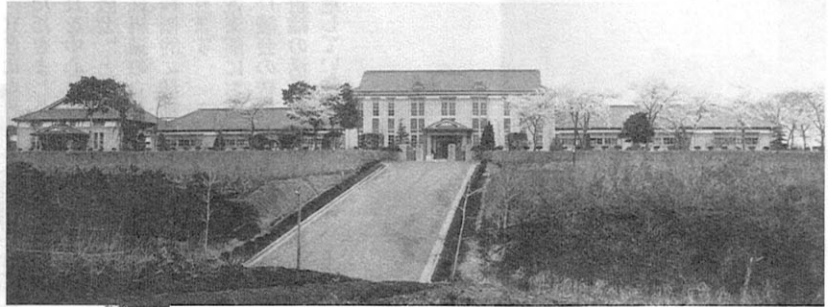
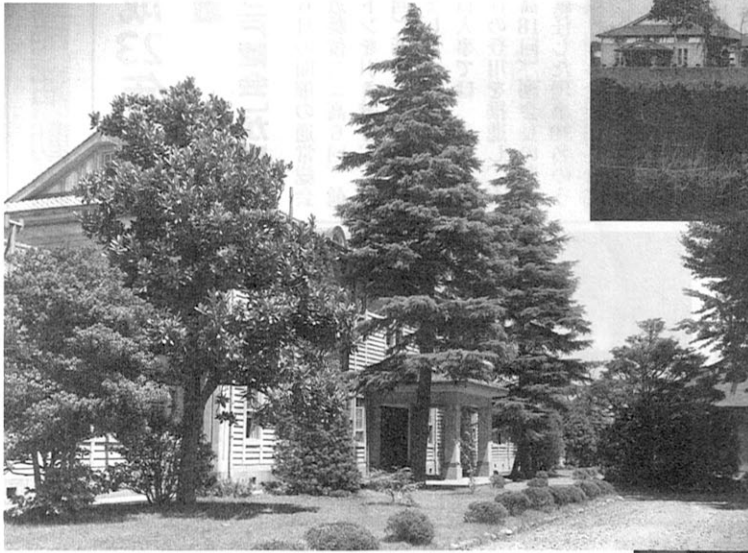
厚高同窓会報

創立110周年記念<第46号> 平成24年5月1日発行
<http://www.atsukou-dousou.org/>

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 25,002名
合計 28,917名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会
編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243

▼昭和41年8月まで使用された木造校舎の正面玄関とシンボルのヒマラヤ杉



▲昭和7年10月に改築・落成した新校舎

▶昭和31年、弁論大会で文部大臣旗獲得



▲平成16年3月14日、ダンスドリル部が全米グランプリ獲得

▶創立100周年記念式典
(平成14年11月7日、厚木市荻野運動公園体育館)



同窓会会長 石川 範義(高10回)

創立110周年に寄せて

陽春の候、同窓の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、私儀、平成23年度同窓会総会に於いて会長に選任されました。同窓の皆様のご支援とご協力を頂きながら、この大任に臨む覚悟でありますので、諸先輩のご指導をよろしくお願い致します。

明治35年(1902年)4月13日、母校・県立厚木高等学校は、愛甲郡の人々の熱き思いに支えられ、戸室の丘に神奈川県立第三中学校として開校しました。

「坂の上の雲」に代表される「明治」という時代に、神奈川県立第三中学校創立略史の起稿者である霜島久圓氏は、第三中学校の果たすべき使命を『未来永遠に本校より濟々たる多士を輩出し、直接間接に国利民福の増進を図るに至は勿論なり』と記しました。

その後、大正、昭和、平成と時代は移り、初代大矢八十八郎校長や霜島久圓氏の母校に寄せる思いは、「世紀を超えて」幾多の同窓生の胸中に宿り続けてまいりました。

本年、創立110年という節目の年を迎え、両氏の思いを未来に引き継ぐことが、今私たちに課せられた役目であるとの決意を新たにしております。

同窓会ではこの創立110周年にあたり各種記念事業を計画致しております。また110周年を迎えるにあたり、昨年の同窓会総会に於いて、同窓会本部役員副会長3名の増員をご承認いただきました。

ここ20年間活動が中断しております応援団の復活の意味も含め、担当の副会長として難波浩氏(高11回)、校歌祭の担当副会長として小島富司氏(高18回)、女性の発足にともないまどめ役としての副会長を大井理枝子さん(高18回)にお願い致しました。

なお女性会は名称を『さくら戸陵会』と命名し、既に活動を開始しております。創立110周年記念事業も実行委員会を立ち上げ新年度よりスタートいたしました。(3面参照)

また、学校側の記念式典は9月27日に厚木市文化会館の大ホールで生徒、職員、PTA、同窓会など総勢約1200名で開催され、同窓会より新応援団旗を寄贈する予定になっております。

各種記念事業・行事を実施するにあたり『創立110周年記念募金』としてご協力をお願いする次第であります。

同窓の皆様には110周年各種行事にふるってご参加いただき、歴史と伝統を回顧し、将来の厚木高等学校の発展を共に考えていく契機にしたいと思っております。



同窓林見学とバーベキューの思い出の杜に親しむ会(11月19日)



役員改選が行われた23年度通常総会(6月25日)



恒例行事となった第11回地引き網会(5月4日)

本部活動報告

平成23年度の主な事業報告

女性組織

「さくら戸陵会」が発足

平成23年6月の開催の通常総会において、近藤俊二(高6回)前会長からバトンを引き継ぎ、石川範義(高10回)新会長の新体制がスタートしました。(12面参照)

今期の役員人事では、石川会長の発案で女性の登用を推進し、大井理恵子(高18回)副会長の選任や、新たに就任した理事39名のうち、10名の女性理事を委嘱させていただきました。その後、大井副会長を中心に、その後も「さくら戸陵会」として、同窓会における女性組織の立ち上げに向けて、日々積極的に活動をしていただいております。

各支部におかれましても、さくら戸陵会の皆様とともに、引き続き組織の活性化に向けての活動を推進していただきたいと思います。



「さくら戸陵会」と右はリーダーの大井理恵子さん(高18回)

神奈川芸術劇場にて 第6回校歌祭



第6回青春かながわ校歌祭での厚高の「大合唱隊」

例年、多数の参加をいただき開催されてきた「かながわ校歌祭」も、昨年で第6回となりました。

23年度は9月23日に、会場を1月にオープンした「神奈川芸術劇場」に移して、現役生徒併せて堂々150名の参加となりました。

今回は、思わぬハプニングがあり用意した伴奏用CDがわからなくなりしましたが、そこは、常に万全の体制で校歌祭の運営に臨んでいる応援団OB会のリーダーを中心に、急遽「伴奏なし」のアカペラでの校歌斉唱となりました。

実は、この「伴奏なし」の校歌斉唱が上々の評判で、本年11月23日に開催の第7回での演出に、新たなバリエーションができたのはうれしい誤算であったようでした。

校歌祭終了後は、恒例の「親睦会」となりましたが、中華街の会場と神奈川芸術劇場が極めて至近

距離で、乾いた喉をすぐに潤すことができる。絶好のロケーションで、盛大に開催され、応援団OB会の校歌、応援歌指導をはじめ、かくし芸の小品など楽しいひと時を過ごすことができました。

今年も昨年と同じ会場で、11月25日の開催となっております。皆様のご参加をお願いいたします。

「図書館」の思い出を後世に



整備が計画されている図書館棟(第3戸陵会館)の跡地

母校の正門をくぐるとひっそりと木造平屋建ての建物が建っているのをご記憶の方も多いためと思っております。

この建物は、昭和32年(1957年)4月に創立55周年を記念して、それまで校舎の中にあつた図書室が「独立図書館」として新たに建設されたものでした。

平成23年度の行事・活動報告

[平成23年]

- 4月12日 新入生オリエンテーション 応援団OB会の「校歌指導」
- 4月13日 創立109周年開校記念日
- 5月1日 会報発行
- 5月4日 第11回地引き網会
- 5月14日 伊勢原戸陵会総会
- 5月29日 平塚戸陵会総会
- 6月4日 23年度第1回理事会
- 6月12日 座間戸陵会総会
- 6月18日 愛川戸陵会総会
- 6月19日 関西戸陵会総会
- 6月25日 平成23年度通常総会、懇親会
- 7月24日 厚木連合戸陵会総会
- 8月28日 校歌祭練習会
- 9月23日 第6回青春かながわ校歌祭
- 10月8日 第23回相模原戸陵会総会
- 11月19日 思い出の杜に親しむ会
- 11月23日 23年度第2回理事会
- 11月12日 秦野戸陵会総会

[平成24年]

- 2月5日 津久井戸陵会総会
- 2月19日 南毛利戸陵会総会
- 3月4日 御所見戸陵会総会

応援団OBらにより 新入生に校歌指導

伝統の応援団がなくなって久しいが、4月9日、新入生オリエンテーションに応援団OBとして同窓会役員ら、25名が参加し校歌指導を行いました。

その後、卓球部、新聞部、文藝部、ボクシング部の部室として、多くの厚高生に親しまれてきた「思い出の学び舎」でしたが、昨年9月21日の台風15号により、窓枠や壁、柱の破損など被害が大きく危険な状態となったため、残念ながら昨年未に取り壊されました。同窓会といたしましては、平成24年が創立110周年の記念の年で、創立55周年を記念して建設された図書館が、奇しくも55歳の歳月を経て、その役目を終えたことを後世に語り継ぐべき出来事であると判断し、この地に記念碑を建立すべく、募金活動を展開することといたしました。



昨年に引き続き新入生に校歌指導を行った応援団OB等の面々



大正12年設立の同窓会の前身「両青会」総会(大正13年)



創立90周年記念事業で整備された同窓林「懐い出の杜」



創立100周年の感動を本年7月7日の記念式典へ

創立110周年記念行事・事業

七夕の再会、いま再びの感動を

創立100周年から早10年。母校は今年4月で創立110周年を迎えます。1902年(明治35年)に神奈川県立第三中学校として厚木・戸室の地に開校し、その後厚木中学校・厚木高等学校となり現在に至るまで「剛健」「真剣」「勤儉」の三剣の旗の下、幾多の課題を乗り越え3万名に及ぶ厚中・厚高の卒業生を各界に送り出し、地域の期待に応えようと共に社会の発展に寄与して参りました。

本年の110周年記念行事並びに事業に関しては、簡素でありながらも意義ある内容の充実を図り、次なる10年そして今後の〇〇周年のモデルケースにならんと老壮青の知恵の結集で全ての企画がなされています。

5月4日(金)午前10時より
参加費 会員 ¥4000
同伴家族 ¥2000
子供 無料
会場 鶴沼海岸「堀川網」

12回目を迎える御所見戸陵会主の恒例行事です。年によって当たり外れがありますが、時には鯛や鮫など思わぬものも入っています。ちなみに去年はシラスが大豊漁でした。

写真展

5月15日(火)〜21日(月)
会場 厚木イオン7階 市民ギャラリー、入場無料

歴史への招待・昔懐かしい旧校舎や学校行事を中心に、今回は特に100周年行事や輝かしい歴史を作ったダンスドリル部の活躍、そして『青春かながわ校歌祭』等の同窓会行事の様子を充実させ約90枚の写真パネルを展示します。

ゴルフコンペ

6月4日(月)
参加費 ¥4000
会場 本厚木CC

名門厚木カントリークラブを貸し切って、新緑のベストコンディションのなか、盛大に開催されます。100周年以来2回目の大会で40組160名を予定しております。

110周年記念式典

7月7日(土)
参加費 ¥10000
会場 レンブラントホテル

9月27日には学校としての記念式典が行われますが、同窓会のメイン行事として

式典が行われますが、同窓会のメイン行事として

1部 総会(午後1時〜2時30分)
2部 コンサート(午後3時〜3時50分)

3部 祝賀会(午後4時〜6時)の3部構成で挙行されます。

100周年(木曜日)開催の反省から今回は土曜日開催となり、現役世代の出席が容易になりました。式典では功労表彰や新調された大応援団旗の披露が行われます。

出席は都合で2部コンサートからでも3部祝賀会からでも結構です。当日受付もしますが混雑を避ける為に事前登録(エントリー)とさせていただきますので、基本的には各支部を通して参加して下さい。

詳細は同窓会役員・理事・及び各支部役員・実行委員会に問い合わせて下さい。また、6時の終了後にはクラブOB会・クラス会等で大いに厚木の街を活性化して下さい。

懐い出の杜に親しむ会

11月17日(土)
参加費 ¥3000
会場 半原・南山

毎年秋に行う恒例行事で、愛川戸陵会主官のもと半原南山の同窓林にて記念植樹(山もみじ)・石柱記念碑の建立等を行い、その後、懇親会を開催します。

整備され、公園化された同窓林の錦秋を是非ご覧下さい。

記念コンサート

2013年2月3日(土)
入場料 ¥2000
会場 橋本「杜のホール」

厚木の地を離れ相模原・橋本にて森口賢二氏(高44回)のコンサートを開催します。

昨年結成された女性会員による「さくら戸陵会」の主管にて一般市民・学生・同窓生そして将来厚木高校を目指す中学生の参加も呼びかけます。

創立100~110周年の歩み

- 平成 14年 11月 7日 創立100周年記念式典挙行
- 16年 3月 14日 ダンスドリル部全米グランプリ獲得
- 16年 4月 1日 全学年8学級により計24学級
- 18年 10月 21日 第1回青春かながわ校歌祭
- 19年 4月 10日 新入生宿泊オリエンテーション(七沢自然センター)開始
- 21年 7月 1日 全普通教室に空調(エアコン)設置
- 21年 10月 10日 第4回校歌祭、厚木市文化会館で挙行
- 22年 4月 1日 学力向上進学重点校指定
- 23年 3月 11日 東日本大震災、95名の生徒が校舎内に宿泊
- 23年 11月 24日 第3戸陵会館(旧図書館棟)解体
- 24年 2月 13日 ソーラパネル(太陽光発電設備)、中庭に設置
- 24年 3月 30日 地学実験室、第2パソコン教室に改修
- 24年 4月 1日 学級数増加・第1学年9学級
- 24年 4月 10日 65分授業開始
- 24年 4月 13日 創立110周年開校記念日

〜世紀を超えて〜

創立110周年記念募金

明治・大正・昭和・平成と時代は移り、母校に期する思いは時代、世紀を超えて、幾多の同級生の胸中に宿り続けて参りました。今その思いを次の通り母校支援事業として計画しましたので、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

●図書館跡地及び正門周辺の環境整備：昭和32年に創立55周年を記念して建設された『独立図書館』が55年目の年である昨年12月にその役目を終え、取り壊されました。この跡地並びに正門周辺の環境整備を推進する。

●母校支援基金の充実：毎年、関東大会、インターハイ等の全国大会に出場する生徒・クラブに対して支援を行っており、100周年以来の基金積み立てを目指すものです。

●応援団旗の新調：校歌祭等を通じて学校では応援団(委員会)復活の機運が高まっております。7月の同窓会式典において、新調した団旗を披露し9月の学校式典にて寄贈します。

〈募金の払込方法〉
金額
・一口5000円
何口でもお受けします。

振込先
・横浜銀行 厚木支店 普通
口座番号 6082219
・みずほ銀行 厚木支店 普通
口座番号 1430129

口座名 厚木高校記念基金
(アツギコウコウキネンキキン)
※恐縮ですが振込手数料のご負担をお願いいたします。

「創立110周年に寄せて」



受け継ぐ『三けん』『三徳』の精神

学校長 田中 均

初代校長大屋八十八郎先生のもので神奈川県第三中学校が創設されてから110年。創設当時から引き継がれている厚木高校伝統の教育の精神に『剛健』『真剣』『勤儉』の三けん、及び『智』『仁』『勇』の三徳があります。この精神を生徒に引き継ぐのが私の使命であると感じています。特に三けんの中でも『勤儉』、すなわち労を惜しまず人のために汗を流せ、節約、節約を旨とせよ、という校訓は困難に直面している現在こそ、復興の原点とすべき教訓であると思いますので、粘り強く取組んでまいります。

また、『三徳』の『仁』『勇』は、これからのリーダーに『智』と共に必要な資質であると思いますが、これは学業、部活動等に真剣に取り組む生徒間の切磋琢磨の中から、生徒自らが学び取るもので、そうした切磋琢磨が生まれる環境を作るのが校長の役割であるとも考えています。厚木高校に赴任してから約一年間で、多くの戸陵会の先輩方とお話をする機会にも恵まれ、本校の伝統を私なりに学ばせていただいているところです。先輩たちの心に脈々と受け継がれている伝統を感じ取り、こうした伝統を継承しながら、新たな取組にも積極的に対応してまいりたいと思います。

例えば、授業力向上。今年度は文部科学省の国語、数学、英語の教科調査官が本校の学習指導研究のお手伝いをしてくださることになっています。もちろん、その成果は全国へと還元されることと思いますが、本校の教師が円滑に授業力向上に取り組めるよう、環境づくりに努めてまいりたいと思います。例えば、スーパースイェンスハイスクール。残念ながら、今年度の指定を受けることは出来ませんでした。高きに憧れ、長きを慕う生徒を育てる厚木高校としては粘り強く、継続してチャレンジしたいと思っています。施設面では、老朽化し、取り壊した第三戸陵会館の跡地に芝生を植え、明るく生徒が憩える場にすることや、第二戸陵会館1階のトレーニングルーム整備などにも取り組んでまいりたいと思います。9月27日の学校主催の110周年記念式典においては生徒のスピーチやプレゼンテーション、部活動発表などを中心に、先輩方から生徒に受け継がれた伝統を生徒がステージ上で見事に表現してくれるものと期待しています。今年度のテーマは温故知新、古きよき伝統を継承し発展させ、生徒を支援して参りたいと思います。

学校情報

本年度4月の異動で佐々木健雄副校長が住吉高校に転動され、新たに川端麻穂先生(水取沢高校)をお迎えしました。同窓会校内役員では、英語科の小牧住子先生(高29回)が大和高校へ、国語科の坂本修一先生(高33回)が相模向陽館高校へそれぞれ転動となり、永谷高校より理科の木村和彦先生がご着任されました。



次世代のリーダーとして世界中に送り出したい

副校長 川端 麻穂

3月半ばにワシントンDCを訪れる機会がありました。例年になく暖かい天候のため、ポトマック河畔の桜はもうすでに満開で、思いがけず美しい桜吹雪を見ることができました。今年日本から桜の木が贈られた100周年を記念して様々なイベントが日米で催されていますが、厚木高校はそれを上回る110周年を迎え、生徒たちも同窓の方々も周年事業の企画に取り組んでいると伺い、改めて厚木高校の歴史の重さと同様の厚高への熱い思いを実感しています。このたび、副校長としてその歴史の一部を担う機会をいただいたことを大変光榮に思うとともに、その重責も感じております。厚木高校の歴史と伝統を守りながら、進歩を続ける科学と国際社会の中で求められるコミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力を強化するための教育活動に、創意工夫を凝らしながら取り組み、意欲あふれる次世代のリーダーを世界中に送り出したいと考えています。

充実した高校生活のサポートに

木村 和彦

平成24年4月、思いがけず母校である厚木高校に着任いたしました。厚木高校卒業後は東京都郊外の大学の農学部へ学び、県立高校

に採用となつてからは湘南地区と横浜市内の高校に計27年間勤務しております。ですので懐かしさよりも忘れてしまった事の方がはるかに多く、すっかり様変わりした本厚木駅付近の町並みを見回しながらとまどう日々を過ごしております。

現在の厚木高校は、自分が在籍していた頃(私以外の皆さんはとも)も優秀でしたが、(私)よりもさらに優秀な生徒が多く、その高い評価は前任の横浜市内の高校でも良く知られていました。一方で私はいえ、前任校を含めて授業よりも生活指導の方が主たる業務である高校にばかり勤務してしまつたので、厚木高校の生徒が充実した高校生活を送るために充分なサポートが果たして私に出来るのか、とても大きな不安とプレッシャーを感じております。(毎日身の引き締まる思いです。)

在校生・保護者並びに同窓会員の皆様のご期待に応えられる様、

茅賞

陸上競技部の辻航平君(3F)に



3月1日、第64回卒業式が行われ、319名の卒業生が戸室の丘を巣立っていった。卒業生の中から、学業・部活動・人物のすべてで特に優れている生徒に贈られる23年度の「茅賞」は、先生方の推薦を受けた陸上競技部の辻航平君に決定。賞状と記念品(万年筆)が同窓会長から贈られた。辻君は東工大進学が決まっている。

過去5年間の主要大学合格者数

(現役・既卒の合計数()は既卒者) 平成24年3月26日現在

Table with columns for school names and years from 2018 to 2020. Rows include National, Public, and Private schools.

最近5年間の進学状況

Table showing enrollment and graduation statistics from 2018 to 2020.

支部会便り

このコーナーでは、各支部会の活動状況や会員からのコラム、同窓OBの活躍ぶり等を紹介します。

愛川戸陵会

「創立110周年に寄せて」

同窓林「憶い出の杜」の由来と今

同窓会副会長 八木 一郎 (高14回)

戦前戦中期には、国策として国家に忠節を尽くし国に報いること、国體の護持や精神修養の高揚の場として、青年団や中学校に植林の労働奉仕が大いに奨励されました。昭和14年、神奈川県に於いても「報国造林奨励規程」が定められ、厚木中学校も皇紀2600年(昭和15年)御大典の記念事業として、愛川町から借り受けた10町歩の山林を「学校報国林」として管理をはじめました。

当時の「報国造林契約書」が残っていますが、契約は第6代校長、

永野毅氏(中1回)と、愛川町長井上博氏(中3回)の間で締結されました。期間は昭和15年4月1日より昭和65年3月31日の50年間で、伐採した時の分取割合は町5分学校5分となっていました。この間、本校の先輩達は労働奉仕に精力をつぎこみました。

敗戦後2、3年は奉仕作業は中止となりましたが、昭和28年以降同34年(?)位まで1年入学時の1学期中の1日は、下刈実習がありました。

毎日、毎日きびしい勉強の本校

生にとつては、深山幽谷で汗をかき、清らかな空気を吸った貴重な思い出となっています。

その後昭和40年、学校林は同窓会名義に移管されました。昭和から平成に変わり、期間満了の平成2年4月1日当時の同窓会長、山田恒雄氏(中27回故人)と愛川町長、相馬晴義氏の間で、平成32年3月31日まで30年間、分取割合は町2分、同窓会8分で延長締結されました。

平成4年、本校創立90周年を期して「憶い出の杜」の記念碑が、宮ヶ瀬ダムに沈んだ中津川の自然石を利用して建てられ、山田会長直筆にて「愛川の山に挑みし遠き日の、戸陵健児が憶い出の杜」と

大きまれ、裏面には同窓林の由来が記されてあります。しかしながら、時代の変遷とともに、植林事業は現実的に意味をなさなくなり、将来、同窓林の中の平坦地を利用して、森林公園(南山フオレストパーク)となるべく、愛川戸陵会及び近隣の有志によって、手入れがおこなわれております。

各支部が100周年を記して行った植樹もたいぶ育ってきています。

戸陵健児の思い出と長い歴史を保ちながら同窓の人々にとって、ホッと癒しの空間となるべく努力中であります。各位のアイデアをお聞かせ願えれば幸いです。

最年長102歳の「父」

内藤 匡彦 (高17回)

父、国蔵は明治42年生まれ、旧制中学21回卒業です。数年前までの父は風呂上がりに1缶のビールと1合の酒をそれは美味しそうにゆつくりと晩酌するのが習慣でした。ほどよく酔いが回ってくると懐かしい昔話など色々な話を私共夫婦、孫家族の前で楽しそうに話してくれました。その中でも旧制中学時代の話は多く「その話、聞いたよ。」の家族の言葉をよく延々と話すのです。

現在も増々難関校となっている厚木高校も第1回旧制中学卒業であった、国蔵母方の伯父(新井徳治)が入学する時などは生徒が集まらず先生が生徒募集に来られたというのです。昔は尋常小学校6年間を修了し高等科2年間の学業をさせて貰えば御の字で旧制中学5年間に進む生徒は田舎の半原で

校長先生は威厳あられた大屋八十八郎校長。体操を教えて下さった中田先生。雨天体操場という場所が抜かれたという剣道顧問の飯田先生。消極的であったのか「内藤、前に出て来い」と何度も竹刀を振り上げられたそうです。英語は、西洋人の背の高い女性、ビリーングラム先生「Spring has come. Frost and snow melted away.」と教えて下さったと、このフレーズがお気に入りなのか得意気に何度も繰り返すのでした。

通学が大変だった国蔵は、校舎続きにあった寄宿舎で寮生活を送っていました。活気溢れんばかりの男子4、5人の部屋の寮生活は勉学に励み楽しく語り、人生の中で一番思い出深い、親しい友人ができた時でもあったようでした。食事は「マアちゃん」の名で親しみのある体格の大きな使丁さんが家族住み込みでいられ、御夫婦で作ってくれたそうです。ジャガ芋の蒸した料理がよく出されたとい

に数回、和菓子の菊屋さんが学校に来られ少ない小遣いの中から1つ2銭のもち菓子を買い、夜皆で食べるのも楽しい一時であったと言っています。

大正12年9月には、関東大震災を経験し地盤の弱い厚木街は随分被害を受け被害を受けた多くの生徒は退学を余儀なくされ、友達が減り淋しくなるとも話していました。

大正15年6月、中学5年の時、不幸にも祖父と父親を数日違いで失い、知らせを聞いた国蔵は同じ寮生活を送っていた弟と急ぎ歩いて帰ったとの事。厚木から半原までの道のりは長く、借りてきた提灯をつけたといいますが真っ暗になり心細かったであろうと思えます。国蔵は、家業の燃系業を継ぐ為、7人の兄弟の長兄として旧制高等学校進学(大学)を諦めたそうです。親代わりとなった国蔵は商売の勉強をし、弟達皆を旧制中学、高等学校に進学させる事ができ、ほっとしたとも話していました。

その後、私も高校17回生、娘50回生、息子52回生と厚木高校にお世話になり、国蔵は「何より嬉しい」と入学を喜んでくれました。数年前までの国蔵はよく出掛けるのが好きで、みやげに鮎の甘露煮やもち菓子を買ってきてくれました。中学当時美味しかった物が好物になっていたのだと思えました。

国蔵は、今年7月5日で103才になります。「人は生きていく以上、徳を積まなくてはいけない」をモットーにしてきた長寿の父には「神様と仏様が側についていられるのかな。」とつくづく思うのです。



半原・南山現地の記念樹の前で(昨年の憶い出の杜に親しむ会)



同窓林の杜に親しんだあとはバーベキューに大いに親しんだ



中央が今年103歳を迎える国蔵さん(中21回) 左が筆者の内藤匡彦氏(高17回)

津久井戸陵会

祖父は厚中1期生
野球の好きな英国紳士風

私の父方の祖父の名は、大塚董(ただす)と言ひ、旧制厚木中学校(神奈川県立第三中学校)の第一期生でした。

祖父と私は同居していましたが私が3才の時に祖父が他界してしまつたので、記憶はほとんどありません。もちろん、会話をした記憶もありません。しかし、家人(祖母や父)がよく祖父の思い出話をするのを聞いて育ちました。

家が厚木より遠方の津久井で、通学が困難だったため、祖父は寄宿舎にはいつていたそうです。

祖父は流暢な英語を話したそうです。父の兄が中学生の頃、祖父に英語の教授してもらつていたのを聞いた父は、「兄貴の発音はカタカナをしゃべっているようだが親父はきれいなクイーンズ・イングリッシュだな」と思ったそうです。それもそのはず、第3中学校の英語教師はイギリス人だったの



中1回卒業式の記念撮影(明治40年3月27日)

です。

また祖父は、創設された野球部にはいり、ピッチャーとして活躍したそうです。晩年になつても今の甲子園の前身である全国中等学校野球選手権大会の模様をラジオで聴取し、自らスコアをつけて熱中していたそうです。

祖父は両親に内緒で、千葉医専(現在の千葉大医学部)を受験し合格したのですが、母親が遠く千葉へ手離すことを拒み反対したため、止むなく進学を諦めて、地元

の郡役所に書記として就職しました。祖父が千葉医専を出て医者になつていたら、我が家の運命も大きく違つていたでしょう。祖母と結婚しなかつたかもしれない。私も生まれていなかったかもしれない、と思います。

祖父はたいへんおしゃれで、まるで英国紳士のような服装をしてきたそうです。祖父の一葉の写真を見たことがあります。生成の麻のスーツに身を包み、懐中時計をポケットに忍ばせ、足を組んで椅子に座っているのですが、孫の私から見てもなかなか格好良く、キマツていました。その写真が見つからず、掲載させて戴けないのが残念です。

私が厚校卒業生になり、祖父と同窓になつたことを、きつと喜んでいくれることと思います。

広報委・大塚 朋子(高26回)



日本テレビのお天気キャスター木原実氏(高31回)を講師に招いての総会(23年6月12日)

座間戸陵会

次の地震を生き抜くために

会長 瀬戸 宏孝(高4回)

「座間戸陵会」では、定期総会を去る23年6月12日に座間神社「すいめい」で開催しました。

今年で発足22年目を迎える戸陵会では、毎年同窓会を兼ねた総会を行つており、予算等を審議するとともに現職の厚高の校長先生をお招きし、厚高の活動状況等を拝聴しております。また総会終了後各界一戦で活躍されておられる

れる方をお招きし、講演を開催し研鑽を深めています。

今年は、日本テレビのウエザーキャスターとして広く知られております。氣象予報士で、防災士でもある、厚高31回卒の木原実氏をお招きし「次の地震を生き抜くために」と題する講演を行いました。同氏の軽妙な語り口は子どもたちからも親しまれており、そのためか、子供連れの参加者もみられ、加えて3月11日発生の東日本大震

相模原戸陵会

女性を含む役員の実

新体制でスタート

会長 館盛 勝弘(高14回)

恒例の第23回定期総会は、平成23年10月8日、相模原市民会館で開催。来賓として田中均校長、同窓会から泊瀬川副会長等が出席され、会員58名総勢62名となり、5年連続で60名を上回る参加者となりました。

田中校長からは、来年の母校を希望する受験生を対象にした学校説明会を各地で実施する等積極的に取り組み、厚木高校をより充実させたいとのご挨拶があり、ご努力に感謝しました。

成15年に会長に就任された篠崎源太郎会長(中31回)が相談役に就任されました。9年間に渡り、会の運営や諸事業への参加等ご尽力されました。後任の新会長には私館盛勝弘(高14回)が選出されました。また、今まで役員として会を支えていただいた先輩諸氏には、顧問に就任していただきました。役員は10名の増員をし、若返りと女性役員を増強しました。本部へも副会長、及び役員として女性2名の登用をしました。今後、新体制で当会の活発化、本部への協力事業

への積極的な参加等をしてまいります。毎回行っている同窓生による講演会では演題「東日本大震災の概要と本市防災対策」で相模原市危機管理室長の武田伸彦氏(高29回)によるビデオを使用した現地の状況(大船渡市)を解説していただきました。



今回も60名を超える参加者となった第23回定期総会(23年10月8日)

災の発生のおとだけに、地震に対する関心も高く、例年になく参加者が多く、50数名を数えています。講演の内容は、今回の大震災の発生等で、我が国が地震の活動期に入り、関東地方等でも大地震発生が切迫している状況にあつて、100円ショップなどで格安に手に入る小物等を活用し、地震発生時に身を守る方法等具体的に分かりやすく実演しながらの講演で、大いに参考になりました。また、本会では、同年4月22日に厚木国際CCで第2回ゴルフコンペを開催しています。今回は、東日本大震災の被災地に義援金を送るためのチャリティーで、5万円の浄財を被災地に送るなど、活発な活動を展開しています。

伊勢原戸陵会

『出逢い』



高橋 力(高18回)

素人マジシャンも6年目

厚高を卒業して49年(18回生)にもなりました。早生まれなので、今年64才です。厚木出身の私です。が縁あって伊勢原で歯科医院を開業して37年になります。

高校の時の思い出としては、入試のチャイムの音が今だにはつきりと耳に残っています。2年生の時、陸上部でもない私に声をかけていただき、伊勢原高校での北相陸上競技大会に参加した事など今思うと、この時から伊勢原に縁があったのかな、と思います。

体育の授業では、森町先生にお世話になりました。伊勢原といえ、同業の20回生の清田耕造氏に紹介され伊勢原戸陵会に入会し20年、現在に至っております。毎年5月の第2土曜日に総会を行っています。今年は第62回目です。

高1の時、野球部に入るつもりが坊主になるとハゲが目立つので止めました(黒田先生が部長でした)。しかし野球は10才の時に始め、現在迄54年間継続中です。主にピッチャーとして、秦野伊勢原歯科医師会の野球同好会を私がつとめて35年目。現在監督兼選手で

秦野戸陵会

『神奈川県中学校体育連盟会長』として

活躍中の米山和久さん(高23回)



米山和久さん(高23回)

投手で、まだ100km以上のスピードボールを投げます。スライダ、カーブ、シュートも。今『ALWAYS』丁目の夕日64』という映画が1月22日に公開され、早速見に行きました。64年(丁度高2の時)を舞台にした映画です。東京オリンピック開催、東海道新幹線開通、日本武道館開館「ひよこりひよこたん鳥放映開始」等々、今でも思い出深いことが色々ありましたね。64年は監督の山崎貴氏が生まれた年。今私64才。映画を見終わって帰りに偶然出会った私の患者さんが、山崎貴監督と同じ長野県の高校出身で、最近会ったばかりという事でした。

映画の内容は、今忘れかけている家族の大切さ、暖かさ、隣近所の人達との人情...等を感じながらの2時間20分でした。涙が止まりませんでした。

歯科医院を開業して37年、野球54年、ゴルフ51年、陸上競技(短距離走&走幅跳)20年、台気道15年、素人マジシャン6年目(校歌祭の2次会で2度程フチマジックショーをさせてもらいました)。以上

全て現役であと56年間120才迄と思つています。待合室から見ると、あの有名な故中村寅吉先生の歯の主治医を20年間させてもいました。なぜか診療所の裏のお

寺に先生のお墓がこちらを向いて立っています。待合室から見ると、気が付くと挨拶してる私です。ありがとうございます。以上色々な出会いに感謝!感謝です。

秦野戸陵会の会長である米山和久さん(高23回)は、昨年4月に「神奈川県中学校体育連盟」の会長に就任しました。学校現場では秦野市立南中学校長として多忙な毎日を送っています。その活躍ぶり

と近状をご紹介します。厚木高校の在学中は、3年間陸上部に所属し、昭和50年に大磯町立国府中学校で教鞭を執つて以来現在に至るまで青少年の体育の向上に取り組んできました。平成21年、22年には県中体連の副会長を務め、昨年4月に就任した会長職の任期も2年です。

県中体連は昭和26年の発足で、現在県下の公立中学校412校と私立53校の合計465校の加盟からなる伝統ある組織です。主な事業としては、競技部(中学校の運動部活動種目における活動)と研究部(中学校の保健体育の研究活動)。

県中学校総合体育大会、保健体育協議会の開催などがあり、中学生の健全育成に取り組んでいます。平成23年7月には、県中学校総合体育大会が中ブロック大会(平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町)として開催され、秦野市総合体育館で「総合開会式」を行いました。この様子は、神奈川県にも掲載され、平成24年は、川崎ブロックでの開催が予定されています。

さて、校長と会長職の両立と言ってもなかなか大変なようです。県中体連の事務局が、横浜の三ツ沢に置かれていますので、会議はいつも横浜が多く、関東大会・全国大会の会場にも必ず県代表として出席します。従つて県内だけでなく県外への出張も数え切れません。1月からは、冬期種目として「スキー・スケート・アイスホッケー」も行われており、新潟県等にも出張したそうです。

また、平成24年には、全国中学校体育大会が関東ブロックで開催されるため、本県でも「卓球・柔道」の2種目を担当します。開催地は、横浜市・川崎市との事ですが、県中体連会長として全国から

平塚戸陵会

第1回「ゴルフコン」を開催

晴天の大熱海国際ゴルフクラブの熱海コースにおきまして、11月17日、第1回のコンペを開催いたしました。

日も、体調の良い日もあっただろうに、2日に1日をも上回るペースで、365日の半分を超える日をゴルフに精出したということに...一同、感心するやら半ばあきれるやらではありましたが、遠くには富士山も見えるところで、ゴルフの上達に靈験あらたかな(?)石碑の前で一同神秘的な顔つきでの写真撮影と相成りました。

参加者が8名と若干寂しい感じも致しましたが、ニアピンボールなどでは、ティーグラウンドから前の組のプレーも見ながら「バンカーで苦勞している姿やらに、がやがやと!」「後ろの組のプレーに、近くには寄らないな」と、わざわざと!」などなど楽しさ溢れるコンペとなりました。

さて、午後の日差しの中、無事にプレーも終了し、成績発表となりましたが、栄えのある第1回の優勝は金子敏明さん(高21回)が見事に栄光を勝ち取りました。



親睦には何とんでもゴルフと飲み会?

話が終わりましたが、スタート前の集合写真の後ろに少し姿の見える石碑は、いずこかの鉄人が年間210日のゴルフを楽しんだ記念(?)とやらで、雨の日も風の日も楽しむことができるよう、また、ゴルフ以外の催しも、実施しながら落合重治会長の下、一致団結して平塚戸陵会を盛り上げて行きたいと考えておりますので、他支部の皆様におかれましては、色々なアイディアがございましたらご教授いただきたく存じます。表彰式の後、暮れなずむ戸室の丘ならぬ、亀石峠を越えて、一同岐路に着きました。

広報委・渡辺兼行(高19回)

海老名戸陵会

「おわら」を通しての

地域づくり

濱野勝利さん(高14回)の経営されていた(現在は息子さんが経営)

在約60名の会員の代表として活躍されております。

濱野勝利さん(高14回)の経営されていた(現在は息子さんが経営)お店(メンズハマノという名称の紳士服店)既に50年余の長きにわたり地域密着で事業を継続されていることは素晴らしい一語です)のロビーでお話を伺いました。



芸達者な濱野勝利さん(高14回)

で30代の頃から三味線や民謡を習っておられました。「おわら」に出会ってからはその道一筋に努力されたそうです。その魅力をお尋ねすると、三味線・胡弓・太鼓・唄・踊り、それぞれが気持ちを通わせながら高揚していくその独特なコラボレーションはジャズの即興演奏を楽しむミュージシャンの感覚に近いかも知れないと。また、八尾の人達は「おわら風の盆」を供養

だといえます。天上の人達とも心を通わせることができる。そして母親のおなかに居る頃から「おわら」を聞いて育ち、稽古に明け暮れます。芸を磨き、腕を上げるのが生活の中心になります。だから「おわら」は日本の宝だと思えますとおっしゃっていました。是非本物を地域に伝え、根付かせたいとも。活動実績も多岐にわたり、「えびな風の盆」を中心行事にえびな市民まつり、各地区の敬老のつどいなど、市内の行事をはじめ、遠くは東京世田谷・高輪など各種お祭り、イベントなどにも出演してパフォーマンスを披露されているところでもあります。是非皆様も近くで見られる機会がありましたら、その素晴らしいさを堪能していただけたらと思います。

広報委・廣田敏之(高17回)

厚木連合戸陵会

『戸陵会だより』の発行と

ゴルフコンペの開催

厚木連合戸陵会は本年度創設10年の節目を迎えますが、厚木市内8地区戸陵会の連帯に向けて、事業推進の両翼を支えてきております広報、ゴルフ両委員会の活動を紹介します。

開催される110周年記念式典に「記念行事特集号」として発行したいと考えています。広報委員長・難波角三(高16回)

◎ゴルフ委員会

3月8日に本厚木カンツリークラブに於いて第6回厚木連合戸陵会ゴルフコンペが27組、104名で開催されました。近隣戸陵会からのエントリーも回を重ねることに増え、前回同様、伊勢原、平塚、海老名、愛川、相模原の各戸陵会の参加に加え、座間、御所見の両戸陵会の初参加で大変盛況となり、又、年代も4回卒の大先輩から51回卒までと、幅広い方々と和気あいあい友好を深めております。結果は次の通りです。

- 優勝 新鍋一郎(相模原26回卒)
2位 齊田耕司(南毛利14回卒)
3位 大貫 亨(南毛利17回卒)
ベストスコア 大貫 亨(ネット76)

御所見戸陵会

同窓会前副会長

佐藤忠一さんを偲んで



厚高同窓会副会長であり、同広報委員長という大役を務めておられました佐藤忠一氏が、昨年7月、病のため鬼籍に入られました。人格識見ともに優れ、万事に誠実に対応される氏の逝

矢部 満雄(高10回)

去には各方面からそして多くの同窓生からその死を悼まれていたところであり、誠に残念であります。氏は小・中・高と無二の親友であり、12年間を共に学び遊んだ仲でありました。御所見から約3里の砂利道を自転車に乗り、雨の日や風の日も通学をした事が昨日の事のように思い出されます。氏は、厚高入学以来3年間常に学業に励み、努力し、その成績人格ともに優秀であった者に卒業式の際与えられる名誉ある「岡崎賞」と

与えられる名誉ある「岡崎賞」と、同目的の「三二会賞」を受賞されると共に、現役で東京工業大学に入学されました。大学卒業後は日本精工株式会社職を得て技術者として活躍され、日本工業界に多くの業績を残され貢献されました。平成13年の秋、日本機械学会から「功績賞」を受賞されました事がその証であります。会社退職後も奈良県下の某機械工作会社のコンサルタントとして、月に幾度か顔を出していただいていたような話をされておりました。

仕事好きで面倒見が良く、卓越したその技能と力量は今でも必要とされ、社会貢献されていたようでありました。母校同窓会の副会長として、また平成19年発足の同広報委員長と

『安らかに眠り下さい』ただただ心からご冥福を祈るのみであります。合掌。

この発足趣旨の下、歴代広報委員長諸氏の尽力で、各年度定期同窓会総会、各戸陵会だより、活躍している同窓生紹介、教育界編、芸術界編、文化芸術界編、厚木高校だより、在学生の動向、クラブ活動の状況、同窓生をたずねて、青春ながわ校歌、校歌情報等の取材記事等を基本として、総発行部数3500部を同窓会本部をはじめ各支部および厚高の教職員、在学生また文化祭当日には、ご父母にも配布しています。そして今年度は、母校の創立110周年記念の年であるため、今後開催される各種の記念行事を取り上げ、9月に厚木市文化会館で

南毛利戸陵会

『神奈川県立第三中学校創立略史』に見る
民権活動家 霜島久圓とその同志たち



霜島 久圓

本校の歴史を語る時、まず冒頭で紹介されるのが、『神奈川県立第三中学校創立略史』(明治43年6月)です。この略史起稿者霜島久圓は自由民権運動家として著名ですが、『神奈川県立第三中学校創立略史』中に見える霜島久圓と同志であった民権運動家たちを紹介します。

自由民権運動は明治7年板垣退助らの民権議院設立建白書の提出によってスタートしました。その後本格的な組織的活動は明治13年頃から開始され、霜島久圓は6月提出された国会開設請願書の総代の一人として名を連ねています。翌明治14年から地方政社が続々と結成され、相州(愛甲郡)では「相愛社」が明治15年2月1日厚木で創立の大懇親会を開催しています。この「相愛社」は学習結社の性格が強く定期的に講師を招き高度な学習会を行っていました。霜島久圓はこの「相愛社」副会長に就任し、同年7月自由党に入党、民権運動の中心的役割を果たしました。霜島久圓と同志であった民権活動家を『神奈川県立第三中学校創立略史』から拾って見ると、玉川村長中村得治、荻野村長森勘太郎、

内藤 佳康 (高19回)

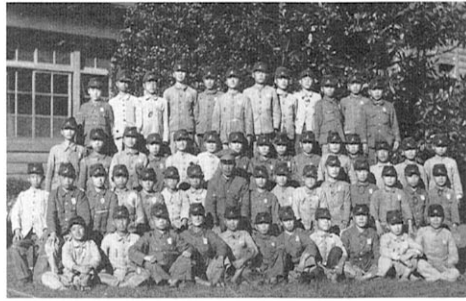
郡会議員難波惣平(荻野村)・石井道三(荻野村)・森豊吉(小鮎村)・岡本与八(三増村)・等がいた。このほか学校設立寄付者に早川耕造(南毛利村)・片野徳三(荻野村)・井上篤太郎(三田村)・村上安次郎(三田村)等の名が見えます。

厚木戸陵会

終戦を挟んだ旧制中学時代

溝呂木 孝一 (中41回)

これらの人々は、民権期以後、村長、県会議員、実業家として活躍の場を移して行きました。彼らは霜島久圓にとつて、明治10年代の自由民権運動以来の同志であり、再び明治30年代半ば、苦境の第三中学校創設時において、霜島に対して協力を惜しみませんでした。このことは、自由民権運動で結ばれ、20年の時を経て、なお地下水のように固く結ばれていたからと言ってよいでしょう。霜島久圓は、大正8年4月12日84歳で没、厚木高校の北側にある浄雲寺墓地に眠っています。



中41回生のクラス写真

私達の厚木高校同級生は旧制と新制の2組になっている。学校制度の改正によるもので昭和21年3月に4年で卒業し就職した者や、大学、専門学校へ進学した者、そして旧制の5年生に進学し、これが旧制中学校最後の卒業生となっている。昭和22年3月である。昭和16年(1941年)12月に大戦争が始まり、その翌年の昭和17年4月の入学である。どうやらまともに授業をうけられたのは1年生、2年生迄で3年生になるとすぐに学徒動員と称し軍需工場へと引っぱり出されることになる。そして4年生の夏(昭和20年8月)に終戦。ラジオから流れる天皇陛下のお言葉に何をおっしゃっているのかもわからずじやうつむいていたが、それが戦争に負けた放送である。母親から聞かされた私の最初の言葉が「特攻隊の兵隊さん達は犬死ではないか」と号泣したことを今でも憶えている。そして平和となり、厚木高校創立100周年を記念して我々同級生は記念文集を出版した。

題して『戸室の丘辺旭日さして』その中から私の拙文の一部を紹介いたします。

『そば屋の息子』

そば屋の長男に生まれた私は、小学校の頃から、店の掃除をしたり、近所への出前持ち位は手伝っていたので、中学校へ入学して最初の農家への勤労奉仕は、つらいとは思わなかった。むしろ農家の方には「よく手伝ってくれ」と、ほめられるくらいであった。

しかし、それが却って一緒に行った5年生の先輩には気に喰わなかったようだ。そして1年生に入学して最初の、柔道場での1年生全員正座によるお説教では、遂に名指しで声がかかった。厚木の溝呂木はいるか?手をあげろ!純情な私は素直に何の疑いもなく手を上げた。勤労奉仕で一緒だった、それも私の家から300メートルも離れていない隣の町内にいる先輩ではないか。第一声が「目をつぶれ!」次に「きさまは生意気だ!」と。こっちは何で怒られているのかわからない。「返事をしろ!」「ハイッ」悔しさで涙が出そうになったが、ジッと我慢した。それだけだった。別にその後、何のお説教もない。ただ「生意気だ」。理不尽な先輩もいるものだ。しかし、当時はそれに反発するわけにはいかない。教室に戻るとクラスのみんなが私を見ている気がした。後で考えると、どうも、農家の私の働きぶりが、適当にサボりながら、ポチポチやればいんだと思っていたであろう先輩には、「溝呂木君はよくやるね」と云ってくれた農家の方の言葉を聞いて、「あの野郎、1人いい子になりやがって」と云ったところではなかつたのかと。

相川戸陵会

「我が青春は木造校舎なり」

会長 高橋 将 (高14回)

ボン、パン、パン。放課後の教室に廊下を隔てたテニスコートの脇から羽目板に打ち付けるボールの音が響いてくる。最初はうるさいと思った音も慣れてしまえば青春の意気と汗の音のように思われ、音が無いと寂しく感じるようになってきたが、かなり痛んでいるのではと思った羽目板が割れることもなく、高校の校舎の堅固さには感服した。

40年前に消えたあの懐かしき木造校舎。それまでの貧弱な小・中学校の校舎しか知らない者には、合格発表日にヒマラヤ杉の後ろに風格と威厳をもって聳える建物に身震いを感じた。元気の有り余る高校生が力いっぱいぶつかっても壊れるのはこちらの体、びくともしない羽目板には、頭を下げざるを得なかった。また床に年数回塗られるフロアオイルの黒光り。その影響か反りに返る上履きの底と独特の臭気、それに加わる数ヶ月洗わない体操着の香りが教室に満ち満ちているのが10代後半の我らの世界。当時「青春とは不潔と同居なり」に違和感を持たなかったが、今なら5分と耐えられないかもしれない。下駄履き、丸刈りくりくりあたりに学帽をのせて通った坂道、坂の下のプールサイドで六尺の着用訓練から始まる水泳授業、冬の「田村堀」1周の、なぜか途中の東高校までは全速力の長距離走、授業の教科内容よりも先生方の脱線話に聞き入った。Y先生の満州逃避行、S先生のビルマの話、古文のY先生の旧制松山高校や映画「太陽がいっぱい」のストーリーに異文化の味を感じ取り、まだ見ぬものへの憧れを強く感じた古き木造校舎。それは帰らぬ遠き時代へのノスタルジアなのか。旅に出るとふと出会う懐かしき木造校舎がある。佐倉高校、栃木高校と時代を超えて残る旧制中学校や山形大学工学部校舎。現代では文化財として登録されているが、それぞれの校舎の醸し出す雰囲気、そこで学び夢を語り合った生徒たちの姿が浮かぶとともに、若き日の自分や友の姿を重ねて感傷に浸るのは老いた証拠なりか。



オイルの匂いも今では懐かしい木造校舎

荻野戸陵会

地域での交流を楽しむ

松本 一郎(高12回)

平成13年に会社を定年退職した頃、厚本高校創立100周年に合わせ、市内各地域で戸陵会が結成されることになり、故野地域でも神崎英男(高9回)、故内田徳孝(高10回)、三平明彦(高14回)さん達を中心になって荻野戸陵会設立準備がされた際、その一員に加えていただき荻野戸陵会立ち上げに関係者と共に奔走したことが懐かしく思い出されます。特に、曾根實(中36回)、奥脇一夫(中36回)、故難波智(中42回)、森則夫(高3回)さん等の先輩には大変ご協力をいただき、同窓の絆を強く感じました。

また、厚本連合戸陵会本部の杉田泰繁(高14回)、伊藤修治(高17回)さんにも大変お世話になり、お二人には、現在も荻野戸陵会の総会に連合戸陵会を代表して、ご出席をいただいています。荻野戸陵会は、設立後も毎年総会の開催や近郊へのハイキング等、会員相互の親睦を目的に熱心に活動しています。現在の運営は、会長の花上肇(高11回)さんや三橋祐二、毛利晃、諏訪寿夫(高16回)さん達を中心になって行われています。一方、戸陵会設立と同時にゴルフ同好会もつくり、年2回のコンペを楽しんでいます。毎回5、6組の参加者があり、盛大に開催しています。

早くもこの2つの会も、今年で10周年を迎えますが、会の運営を地域の後輩達が脈々と引継いでくれています。平成18年には、戸陵会の設立に刺激され、昔のクラス仲間と会いたくなり、同じクラスだった林譲二、斉藤輝久、小池隆一朗さん等と共に、46年振りにクラス会(3E)を開催し、20数名の参加者を得て大いに盛り上がりました。滋賀県から駆けつけてくれた山口正男さんや後日、数名で訪ね観光地を案内してもらおう等、旧交を暖めています。クラス会はその後も毎年開催して交流を楽しんでいます。平成20年に荻野公民館上荻野分館長に就任し、人と人とのつながりを通じた地域づくり等のお手伝いをしていただいています。

荻野地区は、人口約28000人で公民館は分館も含め一体で運営していますので、地域諸団体の役員数も多く、自治連や青少年健全育成会、老人会等の役員の中に先輩や後輩も多いため、行事開催等で大変ご協力をいただいています。市内の公民館長は、前に当紙で依知北公民館長の大家清一(高15回)さんが紹介されていましたが、16館中6館の館長に同窓生が就任されていますので、心強い限りです。

以上いろいろな地域等における同窓生との交流を述べましたが、地域に戸陵会が出来たお陰で世代を超え、今迄面識の無かった人達とも顔見知りになるなど、地域で楽しく交流しています。

「2つのふる里を描く」ということで、洋画家石井清(高12回卒)さんのバステル画展が昨年の10月20日、26日の7日間、厚本市立玉川公民館、元湯玉川館で同時開催されました。期間中、620名もの入場者があり大盛況のうちに終了することができました。

この個展開催にあたり、駐日フィンランド大使館、厚本市教育委員会、厚木商工会議所、厚高同窓会、厚本連合戸陵会、他の後援をいただきました。また、石井氏の小中学校時代の同級生有志や玉川・森の里戸陵会のメンバーが準備から片付け等期間中のスタッフとして活動してきました。

この個展は、石井氏が子どもの頃育った玉川をふる里と思い、地域の皆様方にバステル画の世界を味わっていただきたいという想いを受けて、玉川地区内の景観を精力的に描かれ、「フィンランドと玉川の2つのふる里」ということで開催されました。たくさんの方々鑑賞され、フィンランドや地元玉川の風景など柔らかくしかも繊細なタッチのバステル画の魅力を堪能されていました。あらためて玉川の美しさを感じました。また、22日の土曜日には、地元の小・中学生に呼びかけて「バステル画教室」を開催していただきました。参加者は当日参加の大人も含めて17人で、実際に果物や花などをバステルを使って描きました。

玉川・森の里戸陵会

『日本とフィンランド、石井清 2つのふる里物語』

会長 高橋 増次(高11回)



地元の小中学生に向けて「バステル画教室」も開催

講師の石井先生からは、バステルの特徴や基本的な技法を教えてくださいいただき、限られた時間内で生き生きとした作品を仕上げる事ができ、出席者からは、作品を仕上げたという充実感で笑顔があふれていました。

依知戸陵会

新春、ゴルフコンペを初開催

会長 都高 泉(高17回)

依知戸陵会の仲間の絆を深め、裾野を広げていくために何をすればよいか。いろいろ考えた末に出した答えがゴルフで楽しい1日を過ごすことでした。

1月9日、2組8人のプレーヤーが本厚木CCに集合し、白熱した戦いが繰り広げられました。プロ並みのプレーあり、チョロありなど、特にアウト4番のショートホールでは、林 貢さん(高13回)がホールインワンの快挙を成し遂げられ、大いに盛り上がり楽しい1日を過ごすことができました。これで弾みがついて、110周年記念ゴルフ大会にも何とか参加できそうです。

今回は時間的余裕もなく2組の参加でしたが、今後は、依知戸陵会の事業の充実を目指して、また他地区戸陵会との交流も含めて、参加者を増やしていきたいと考えています。



依知戸陵会の第1回ゴルフコンペ

小鮎戸陵会

はばたけ北海道へ

日本ハムファイターズ入団の大嶋匠君へ

早大ソフトボール部OB会会長 頼住道夫(高22回)



OB会主催の激励会で大嶋君に花束を渡す頼住会長

でも愛される彼が満面の笑みで答えていました。

「自分はゼロからのスタートではなく、マイナスからのスタート。人の3倍やらないと一軍では活躍できない。ソフトボールで培った技術が、プロ野球で通用するのを試したい。この挑戦は私だけだけでなく、男子ソフトボール界にとっても、大きな挑戦だと感じます。」

昨年の10月27日、日本中を驚かせた出来事がありました。私は、その晩テレビのニュース番組で知りました。

それはプロ野球ドラフト会議で「北海道日本ハムファイターズ」が7位で、我が母校の早稲田大学ソフトボール部の大嶋匠君を指名したことです。

早大ソフトボール部、いや日本のソフトボール界からいまだ誰一人として、プロ野球選手になった人はいません。この出来事は、快挙と言わしかりませんでした。食い入るように、テレビ画面を見ていた、早大所沢キャンパスでインタビュの模様が入ってきました。童顔で愛くるしい、誰に

に、早大ソフトボール部OB会で激励会を催しました。私は、OB会長として、彼の一軍での活躍に期待するのは当然ですが、結果を出さなければ即刻退団という厳しい社会で、愛される人間性と賢さで、この世界を生き抜いてほしい

関西戸陵会

第2回総会を開催

2府4県から35名が参加

平成23年6月19日(日) 11時から、関西戸陵会の第2回同窓会を大阪J R グランヴィアホテルにて開催しました。

同窓会本部から、梅澤副会長に遠路より出席を賜り、また関東より友情参加の3名を加え総勢38名での立派な総会となりました。今回の特徴は、何と言っても地域と年齢層の広さと女性の多さ(10名)です。

関西2府4県より最年長は旧制中学39期(昭和20年卒業)の大先輩から、最年少は高52期(平成12年卒業)で0才双子の母親という卒業生までが集った。

齊藤関西会長、梅澤本部副会長の挨拶に続き、最年長卒業生による張りのある元気な声での乾杯の音頭となり、パーティーはスタートしました。

3人の卒業生が司会を分担し、3部に分かれ全員の自己紹介&トピックスを行いました。

各卒業生のスピーチには笑いあり、感心することも多々あり、改めて厚木高校卒業生のレベルの高さに全員が納得した様子でした。また、自己紹介の間には第1回の

と祈念しています。そして、ソフトボール競技者でも、「こままでやれるのだ。」「大嶋ここにあり!」と日本中津々浦々に存在価値を知らしめ、勇気を与えてほしいと念願しております。

写真や厚高100周年のビデオを映しました。齊藤会長挨拶の中で「関西在住卒業生を様々な面から分析し発表され、今後の同窓会の発展についての指針を与えて下さりました。」

梅澤本部副会長の挨拶では同窓会入会者の多さ、現在の厚高の状況等など厚木から離れた卒業生には興味深く、懐かしい話をして頂きました。

予定していた3時間もあつという間に過ぎてしまい、最後に全員で校歌を斉唱し大きな盛り上がりをもって無事閉会いたしました。

報告事項として、関西戸陵会は毎年必ず開催することとし、日時は今回と同じ、「6月の第3日曜日」会場は「J R グランヴィアホテル20階宴会場」とすることを、出席者全員の賛同を得て決定いたしました。

本部の皆さまには、来年の予定に入れていただき一人でも多くの方に出席していただきますようお願い申し上げます。

以上、簡単ですが、第2回関西戸陵会開催の報告とさせていただきます。

同期会便り

高9回同窓の集い

感動の生まれる同級会に感謝

昨年11月、昭和32年卒の同窓会は、古希を超えた「若者達」が懐かしい厚木の地の「レンブランドホテル厚木」に50名を超えて集い、54年前の青春を呼び戻した。会員による記念撮影から始まり、写真が当日家族へのお土産に持ち帰ることが出来るのも同級会の特徴。今年には菊池原康夫幹事が司会進行役となり、他界した同級生への黙祷、大貫隆広代表幹事の挨拶・幹事の紹介・乾杯と熟年のつわもの人生の年輪を重ねた見事なものでした。参加者が僅かに物故者を上回る状況で、今回の不参加のうち23名が健康上の理由で欠席、2年後には元気で再会できることを念じています。

「人と人との出逢いで感動の生まれる同級会」の意義を再発見したいです。各地域ごとに写真をとって、最後は校歌の合唱で再会を期してお開きとなった。二次会には半数以上が参加し、名残の尽きない楽しい1日となり集まってくれた皆さんに感謝します。

幹事・安藤和次郎



左側は前代表幹事の櫻井晃君と元代表の神崎英男君

同窓会本部役員・理事・支部役員 (平成24年4月1日現在)

【同窓会本部役員】

- 会 長 石川 範義 (高10) 12 館盛 勝弘 (高14)
副 会 長 難波 浩 (高11) 13 大矢 正次 (高14)
副 会 長 杉田 泰繁 (高14) 14 石射 隆宏 (高14)
副 会 長 曾根 秀敏 (高14) 15 下川 信好 (高14)
副 会 長 八木 一郎 (高14) 16 高橋 将 (高14)
副 会 長 泊瀬川 孚 (高14) 17 鶴指 眞澄 (高15)
副 会 長 杉崎 秀夫 (高17) 18 志村 昂二 (高15)
副 会 長 小島 富司 (高18) 19 新倉 正治 (高15)
副 会 長 大井 理恵子 (高18) 20 石川 武久 (高16)
副 会 長 廣木 孝幸 (高19) 21 森久保 純生 (高16)
監 事 金子 輝司 (高15) 22 都高 泉 (高17)
監 事 松永 光弘 (高24) 23 小林 義廣 (高18)
24 星 博美 (高18)
25 花田 糸み子 (高20)
26 阿部 洋 (高22)
27 眞崎 和秋 (高22)
28 八田 育子 (高24)
29 剣持 典子 (高26)
30 大塚 朋子 (高26)
31 齋藤 昌代 (高26)
32 今井 雅裕 (高26)
33 高橋 昌和 (高27)
34 山本 智子 (高28)
35 関野 俊之 (高28)
36 伊藤 学 (高30)
37 葉山 真弓 (高30)
38 土屋 由子 (高32)
39 長田 靖子 (高33)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 伊藤 修治 (高17)
事務局次長 石塚 修 (高28)
会 計 足立原 泰 (高12)
会 計 足立 一彦 (高17)

【理事】

- 1 八木 伸一 (中40)
2 高橋 武彦 (高8)
3 遠藤 伸安 (高10)
4 八木 陽一 (高11)
5 町山 良行 (高11)
6 井出 照雄 (高11)
7 城所 文洋 (高11)
8 高橋 増次 (高11)
9 花上 肇 (高11)
10 花田 克雄 (高12)
11 落合 重治 (高13)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会 長 花田 克雄 (高12)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 秦野戸陵会
会 長 八木 伸一 (中40)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井戸陵会
支 部 長 小野沢 純男 (中40)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会 長 落合 重治 (高13)
幹 事 長 渡辺 兼行 (高19)
5. 横浜会
会長代行 長田 敬幸 (高7)
事務局長 春木 健作
6. 相模原戸陵会
会 長 館盛 勝弘 (高14)
事務局長 金子 輝司 (高9)
7. 座間戸陵会
会 長 瀬戸 宏孝 (高4)
幹 事 長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会 長 八木 陽一 (高11)
事務局長 大貫 邦重 (高16)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会 長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長代行 新倉 正治 (高15)
事務局長 笠間 城治朗 (高14)
11. 海老名戸陵会
会 長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
事務局長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会 長 高橋 武彦 (高8)
事務局長 長田 靖子 (高33)
14. 御所見戸陵会
会 長 井出 照雄 (高11)
事務局長 大貫 睦男 (高17)
15. 厚木連合戸陵会
会 長 石射 隆宏 (高14)
幹 事 長 伊藤 修治 (高17)
事務局長 森久保 純生 (高16)
①厚木戸陵会
会 長 遠藤 伸安 (高10)
事務局長 池田 清 (高19)
②依知戸陵会
会 長 都高 泉 (高17)
事務局長 大塚 憲二 (高18)
③睦合戸陵会
会 長 下川 信好 (高14)
事務局長 平野 亮二 (高27)
④荻野戸陵会
会 長 花上 肇 (高11)
事務局長 伏見 清 (高18)
⑤小貼戸陵会
会 長 志村 昂二 (高15)
事務局長 森久保 純生 (高16)
⑥南毛利戸陵会
会 長 神崎 愷 (高13)
事務局長 小淵 正志 (高18)
⑦玉川・森の里戸陵会
会 長 高橋 増次 (高11)
事務局長 山口 義章 (高15)
⑧相川戸陵会
会 長 高橋 将 (高14)
事務局長 山口 正春 (高17)
16. 清川戸陵会
会 長 石川 武久 (高16)
事務局長 相原 栄一 (高20)
17. 新潟戸陵会
会 長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齊藤 勝司 (高8)
18. 関西戸陵会
会 長 齊藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)



http://www.atsukou-dousou.org/

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。主な内容は次の通りです。
【同窓会概要】
本部役員紹介/会則/母校教育振興基金規定/活動活性化補助金交付要綱など
【学校の歴史・校歌】
沿革の概要/県立第三中学校創立略史/同窓会の歴史など
【お知らせ】
同期会/同窓会会報/バックナンバーなど
【支部会のご案内】
各支部の活動報告など
動画や写真など、多彩な内容で同窓生の皆様に日々の情報をお伝えしています。ぜひご覧ください。

同窓会ホームページのご案内

事務局便り

事務局長スタッフ7名に
本年4月の人事異動で、英語科の小牧住子先生(高29回)が大和高校へ、国語科の坂本修一先生(高33回)が相模向陽館高校へご転勤となりました。先生方には同窓会の活動に側面からご尽力をいただき、ありがとうございます。
今年度は理科の木村和彦先生を新たに迎え、次の7名の校内役員で諸氏の活動に頑張ってもらいます。
・須藤 福治(高28回・数学)
・中山 鉄也(高29回・音楽)
・内田 憲夫(高30回・理科)
・内野 英明(高30回・数学)
・木村 和彦(理科)
・三橋 功(高38回・社会)
・吉垣 武(高39回・数学)

編集後記

◎大正12年に今の同窓会の前身である「両青会」が発足して、今年で89年。その主な活動は母校への支援とOBからの親睦だったように今と変わりはしない。しかし活動状況となるとまるで違う。10年前の創立100周年前後の新たな支部の誕生、記念事業への取り組みが今の同窓会の動力源となっている。◎今号は「創立110周年記念号」として3面の特集以外にも、表紙や学校長の寄稿、支部会便りにも「創立110周年に寄せて」をテーマに原稿を寄せていただいた。おかげで明治、大正、昭和、そして平成と、各時代の厚中・厚高の様子が多少なりとも浮かんできたことと思います。今後とも各支部内のニュースやOBの活躍情報など下記広報委員までご一報を。

平成23~25年度 広報委員会委員 (平成24年4月1日現在)

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists members of the Publicity Committee across various branches.